

令和 6 年度 ADEPT プログラム (AI Data Science Education Program for Tomorrow) 自己点検結果

ADEPT プログラム管理部会長

山崎 眞見

本プログラムは、修得した知識・技能を基に、人間中心とした適切な判断ができ、自らの意志でデータや AI 技術を有効かつ、安全に活用することができる素養を身に付けることを目的として創設した。

自己点検組織としては、「横浜市立大学 ADEPT プログラム管理部会」により、他の教学系会議体と連携しながら、本プログラムに係るデータの収集・自己点検・評価の実施、改善等を行っている。

【令和 6 年度】

●教育プログラムの履修・修得状況

令和 6 年度は全学部で 678 名がプログラムを新規に履修し、931 名^{※1}がプログラムを修了した。

※1 過年度から継続して履修する学生を含む

●学修成果

各科目の授業評価アンケートにより、学生の理解度と学習成果を把握した。集計・分析結果は各学部および FD・SD 推進委員会で共有し、各科目の改善に活用した。

●学生アンケートを通じた学生の内容の理解度

授業評価アンケートでは、必修科目「情報リテラシー」(旧カリキュラム:情報コミュニケーション入門)及び「情報リメディアル」(旧カリキュラム)での評価は、学修到達目標の達成「4.41/5」、満足度「4.37/5」、同じく必修科目の「総合講義(データサイエンス入門)」では各ポイントが「3.6/5」、「3.6/5」となった。学生評価は概ね高評価を得たものと確認した。

また、修了者に実施したアンケートでは、設問「このプログラムで、データを元に事象を適切に捉え、分析・説明できる力とそのスキル等が習得できましたか。」に対して、「確かにそう思う」または「どちらかというと思う」と回答した学生が 91%、設問「このプログラムに参加して有益であったと思いますか。」に対して、「確かにそう思う」または「どちらかというと思う」と回答した学生が 92%となった。90%を超える学生から概ね高評価を得たものと確認した。

●全学的な履修者数・履修率向上に向けた取り組み

学期始めのオリエンテーションにおける周知の他、ADEPT プログラムを含む「領域横断型プログラム説明会」での説明、各ゼミや研究室での履修指導により、プログラム参加率向上に取り組んだ。後期には必修科目の講義内でプログラムの概要説明を行った。また、さらなる履修者増加のため選択必修科目の拡大にむけて動き出し、来年度から新たに 2 科目を追加することが承認された。

令和 7 年度以降も本プログラムの周知と履修促進に注力し、より多くの学生が履修・修了するよう取り組んでいく。

【令和5年度】

●教育プログラムの履修・修得状況

令和5年度は全学部で729名がプログラムを履修し、304名^{※1}がプログラムを修了した。

※1 過年度から継続して履修する学生を含む

●学修成果

各科目の授業評価アンケートにより、学生の理解度と学習成果を把握した。集計・分析結果は各学部およびFD・SD推進委員会で共有し、各科目の改善に活用した。

●学生アンケートを通じた学生の内容の理解度

授業評価アンケートでは、必修科目「情報リテラシー」(旧カリキュラム:情報コミュニケーション入門)及び「情報リメディアル」(旧カリキュラム)での評価は、学修到達目標の達成「4.3/5」、満足度「4.3/5」、同じく必修科目の「総合講義(データサイエンス入門)」では各ポイントが「4.0/5」、「4.0/5」となった。学生評価は4以上と概ね高評価を得たものと確認した。

また、修了者に実施したアンケートでは、設問「このプログラムで、データを元に事象を適切に捉え、分析・説明できる力とそのスキル等が習得できましたか。」に対して、「確かにそう思う」または「どちらかというとそう思う」と回答した学生が88.1%、設問「このプログラムに参加して有益であったと思いますか。」に対して、「確かにそう思う」または「どちらかというとそう思う」と回答した学生が91.8%となった。概ね90%の学生から概ね高評価を得たものと確認した。

●全学的な履修者数・履修率向上に向けた取り組み

学期始めのオリエンテーションにおける周知の他、ADEPTプログラムを含む「領域横断型プログラム説明会」での説明、各ゼミや研究室での履修指導により、プログラム参加率向上に取り組んだ。また、必修科目の時間割配置を工夫し、各学部でも必修科目の時間割重複を避ける等の工夫を行った。

また、デジタル学修証明(オープンバッジ)による修了証明について、修了へのインセンティブの付与を含めて新たに開始した。

令和6年度以降も本プログラムの周知と履修促進に注力し、より多くの学生が履修・修了するよう取り組んでいく。

【令和4年度】

●教育プログラムの履修・修得状況

令和4年度は全学部で611名がプログラムを履修し、497名^{※1}がプログラムを修了した。

※1 過年度から継続して履修する学生を含む

●学修成果

各科目の授業評価アンケートにより、学生の理解度と学習成果を把握した。集計・分析結果は各学部およびFD・SD推進委員会で共有し、各科目の改善に活用した。

●学生アンケートを通じた学生の内容の理解度

授業評価アンケートでは、必修科目「情報コミュニケーション入門」及び「情報リメディアル」での評価は、学修到達目標の達成「4.28/5」、満足度「4.45/5」、同じく必修科目の「総合講義（データサイエンス入門）」では各ポイントが「4.19/5」、「4.40/5」となった。学生評価は4以上と概ね高評価を得たものと確認した。

また、修了者に実施したアンケートでは、設問「このプログラムで、データを元に事象を適切に捉え、分析・説明できる力とそのスキル等が習得できましたか。」に対して、「確かにそう思う」または「どちらかというとそう思う」と回答した学生が91.1%、設問「このプログラムに参加して有益であったと思いますか。」に対して、「確かにそう思う」または「どちらかというとそう思う」と回答した学生が94.0%となった。9割以上の学生から概ね高評価を得たものと確認した。

●全学的な履修者数・履修率向上に向けた取り組み

学期始めのオリエンテーションにおける周知の他、ADEPTプログラムを含む「領域横断型プログラム説明会」での説明、各ゼミや研究室での履修指導により、プログラム参加率向上に取り組んだ。また、必修科目の時間割配置を工夫し、各学部でも必修科目の時間割重複を避ける等の工夫を行った。

令和5年度以降も本プログラムの周知と履修促進に注力し、より多くの学生が履修・修了するよう取り組んでいく。

【令和3年度】

●教育プログラムの履修・修得状況

令和3年度に本プログラムを開設し、全学部で97名がプログラムに参加し、3名の卒業年次の学生がプログラムを修了した。

●学修成果

各科目の授業評価アンケートにより、学生の理解度と学習成果を把握した。集計・分析結果は各学部およびFD・SD推進委員会で共有し、各科目の改善に活用した。

●学生アンケートを通じた学生の内容の理解度

授業評価アンケートを通じ、必修科目「情報コミュニケーション入門（8クラス）」での評価は、学修到達目標の達成「4.28/5」、満足度「4.36/5」、同じく必修科目の「総合講義（データサイエンス入門）」では各ポイントが「4.28/5」、「4.1/5」となった。学生評価は4以上と概ね高評価を得たものと確認した。令和4年度は修了者向けのアンケートを実施し、プログラム全体の理解度を収集するとともに、体系的な分析を実施予定である。

●全学的な履修者数・履修率向上に向けた取り組み

学期始めのオリエンテーションにおける周知の他、ADEPT プログラムを含む「領域横断型プログラム説明会」での説明、各ゼミや研究室での履修指導により、プログラム参加率向上に取り組んだ。令和 4 年度に向け、必修科目の時間割配置を工夫し、各学部でも必修科目の時間割重複を避ける等の工夫を行う。

令和 4 年度以降も本プログラムの周知と履修促進に注力し、全学的なプログラムとなるよう取り組んでいく。